

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 741

所管部局	教育委員会	所管課	社会教育課	担当者名	辻 健二郎
事業名	文化財保護事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	文化財保護事業			政策体系	251
会計	一般会計	科目	10.教育 - 5.社会 - 5.文化		

## 1. 事業の概要

文化財の調査及び普及・啓発活動を行う

## 2. 事業の目的と必要性

### ①施策で目指す目標との関連付け

資料の調査を実施することにより、市内にある文化財の基礎資料を得るとともに、将来の文化の向上・発展の基礎づくりを行う。また、普及啓発を進めることにより、市民にとってより身近な文化財を体感できるようにする。

### ②事業を実施する必要性

指定されるなど保護対象となっている文化財については、説明板を改修するなど普及・啓発活動を進める。未指定の文化財、特に建造物や樹木などの有形のもので未指定のものについては、普遍的ともいえる形で市のあちらこちらに存在するものであり、その反面、歴史的価値のあるものに対しては、資料的価値を与えることをしなければ、消滅してしまう可能性が非常に高く、早急な対応が急がれる。

## 3. 事業費の推移

		単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額		千円	629	1,760	1,771	1,386	836	1,694	1,694
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	629	1,760	1,771	1,386	836	1,694	1,694
職員等の従事人員		人/年	—	—	0.46	0.34			
人件費		千円	—	—	3,055	2,369			
事業費総額		千円	—	—	4,826	3,755			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

文化財報告書印刷製本費	130,370円	(印刷製本費)
建造物調査業務委託	500,000円	(委託料)
樹木調査業務委託	149,100円	(委託料)

## 5. 事業結果の概要

- ・調査事業  
天然記念物・建造物・樹木・市内文化財現地調査等
- ・普及啓発事業  
黒田古墳公園史跡管理（草刈）  
現地見学案内（黒田古墳現地説明）  
文化財説明版の修正（八木地区）  
文化財防火デー関連行事  
文化財報告書の発刊
- ・活動助成等  
全国伝統的建造物群保存地区協議会  
全国茅葺民家保存活用ネットワーク  
美山の文化財を守る会

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
<b>(1) 現地点検</b>		
●文化財防火デーに係る防火訓練と施設点検 場所：園部・八木・日吉・美山の各対象文化財 内容：防火訓練、防火査察、消防設備点検	1月24～1月31日	消防署の指導により、防火訓練、防火査察、消防設備点検の実施
<b>(1) 調査研究</b>		
●天然記念物アユモドキ生態確認調査 場所：八木町上桂川統合堰下流 内容：タモ網、仕掛け、投げ網等による調査を実施	第1回 5月26日 第2回 10月12日	アユモドキは未確認ながら14種の淡水魚を確認
●建造物調査 場所：八木町神吉 内容：民家の構造把握並びに平面図・立面図・断面図の実測・報告書の作成	1月～3月	建築まちなみ研究会に業務委託
●樹木調査 場所：八木町内 内容：八木町内にある古木、巨木の調査	2月～3月	京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターに業務委託
<b>(1) 調査報告</b>		
●文化財調査報告会 場所：一原神社（園部町） 内容：①古文書から見た曾我谷及び一原神社の歴史について ②和歌奉納額及び虚空蔵菩薩など美術工芸品について		福島文化財審議委員 犬持学芸員
<b>(2) 現地調査</b>		
●美術工芸品現地調査 場所：日吉神社（日吉町） 内容：拝殿に架かる絵馬の調査	5月23日	福島文化財審議委員
●民俗文化財現地調査 場所：摩気神社（園部町） 内容：お田植え祭りの現況把握作業	6月7日	関西外国語大学原田准教授
●文献調査 場所：日吉町資料館（日吉町） 内容：大般若経現況確認調査	7月24日	上島文化財審議委員
<b>(3) 現地調査</b>		
●文献調査 場所：個人宅（向日市） 内容：河村家文書の現況把握作業	7月27日	上島文化財審議委員

## 7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

昨年度に引き続き専門家による現地調査が実施できた。  
一度の調査ですべてが報告書などの形で残せることはないので、美術工芸品や祭礼などの各分野で継続した調査が望まれる。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
文化財審議委員の積極的な活動の推進
- ②当該事業のアピール事項  
将来の文化向上・発展の基礎づくりを積極的に進めることにより資料の蓄積が進められ、市史編さん時等、活用を欲する時に大きく寄与することができる。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
過疎地域などでは祭礼が後継者不足から消滅の危機に陥っている現況があり、早急に調査を進めていく必要